



海老名

けやきの会 会報 No. 28

JANUARY 2012

海老名けやきの会会報 第28号

発行日 2012年1月15日

発行者 大森安恵

発行 社会医療法人

ジャパン メディカル アライアンス

海老名総合病院・糖尿病センター

〒243-0433 神奈川県海老名市河原111320

TEL : 016-233-1311

FAX : 016-232-8934

【巻頭言】

力を合わせて網を引く

大森 安恵

(糖尿病センター長)

詩人、サムエル・ウルマンは、「青春とは人生のある時期でなく、心の持ち方を言う。年を重ねるだけで、人は老いない。理想を失うとき初めて老いる」と述べた。名言として伝えられている。診療を続けるからには患者さんを幸せにする理想を持ち続けるべきである、と私も日々努力をしているが、老いは着実に進んでいくものである。しかし、感動する心は老いてもなくなるものではない。

平成23年11月11・12日、神戸で第27回日本糖尿病・妊娠学会が開催された。そのとき、特別講演で招聘された北アイルランドのハーデン教授は「妊娠時の高血糖管理に対する世界的傾向」と題して、すばらしい講演をされた。

冒頭に広重の版画、東海道五十三次の「小田原」を出され、日本の文化を讃え、どうしてこれを所有しているかを話された。次いで、血糖コントロールにまつわる講演の最後に、また同じ広重の「小田原」の絵を出されて、「よくご覧下さい。この版画は小田原の単なる海辺の風景ではありません。おおぜいの漁師が力を合わせて一つの方向に網を引いている様子が描かれています。わかりますか？ 高血糖を主題とした糖尿病の研究も、世界中の医師が力を合わせて同じ方向を見つめ、進んでいけば、おおいに進歩することでしょう」と結ばれた。広重の絵をこんな形で見ただことのない日本人は、満場シーンと絶句し、感動の渦に包まれた。

11月20日には、日本糖尿病協会と日本糖尿病財団の主催で、「西日本地区糖尿病予防キャンペーン」が

沖縄で行われた。私も「糖尿病から母児を守ろう」という特別提言講演をさせていただいた。そのとき、おおいに話題になったのは、沖縄はかつて日本一の長寿県であったが、現在では25位に下がり、糖尿病に関しても、透析者が多く、糖尿病合併症を持つ人が最も多い地方であるということであった。

これは、魚や食物繊維を含んだ伝統的な健康食を食べていた住民が、戦後、ハンバーガーなどのような脂肪の多いアメリカナイズされた食生活に変わったためであると言われている。琉球大学医学部第二内科の新任の若い益崎裕章教授は、沖縄を糖尿病診療のメッカとし、長寿日本一の栄冠を再び取り戻そうとする意欲に燃えていて、力を合わせて網を引く漁師の姿を彷彿とさせる勢いが感じられた。

糖尿病治療には一人でできる部分と、皆で力を合わせて集団で行動すればより効果の上がるものがある。小田原はすぐ近くである。皆様、皆で力を合わせて、HbA1c値が最も低い病院になるよう頑張りませんか。



広重の版画「小田原」

漁師が力を合わせて網を引いている様子が描かれている。(下; その部分の拡大)